

会演
総講
SEC特別

民活でメンテ推進

小澤氏 橋梁の維持管理解説



小澤教授

「建設業におけるビジネス戦略」をテーマに講演した。近年、大き

SECコンクリート機械協会（伊藤祐二会長）が13日に開いた通常総会で、東京大学大学院の小澤一雅教授が

な社会問題となつてい
るインフラの維持管理
に関する社会情勢や全
国の自治体の対応状
況、メンテナンスサイ
クルを回すための課題
と方策などについて私
見を述べた。

小澤氏は講演の中
で、道路インフラの維
持管理状況として橋梁
の現状を解説した。全
国には約70万橋の橋梁
があり、そのうち約50



万橋は市町村が管轄し
ている。全国の自治体
では橋梁の長寿命化修
繕計画の策定を進めて
おり、すでに都道府県
と政令市では98%、市
区町村では79%が策定
している。小澤氏は「計
画の策定は進んでいる

都道府県と政令
市は26%、市区
町村は5%にと
どまっている」
と指摘。その原
因として、修繕
民間から補
修市場を創造
することを提
案した

のための予算や人員、
技術力が不足している
ことを挙げた。

小澤氏は、インフラ
メンテナンスの問題点
を示したうえで、それ
を改善する方策につい
て私見を示した。維持
管理のサイクルは点
検、診断、措置、記録
を繰り返すが、地方自
治体に予算、人員、技
術力がないため、「診断
と措置の間が分断され
ている」（小澤氏）とし
た。小澤氏は維持管理
サイクルを上手く回す
ための方策として、民
間企業の力を活用する
ことを提案。土木学会
が策定した「維持管理
等の入札契約方式ガイ
ドライン」や「アセツ
トマネジメントシステ
ム実装のための実践研
究委員会」などの概要

を解説した。
同研究委員会では、
昨年度から新潟市でモ
デル事業を実施してい
る。市内の全橋梁（4
062橋）を対象に民
間企業の力を活かした
アセットマネジメント
システムの実装に取り
組んでいる。システム
案では、15m以上の大
規模橋梁は修繕設計・

施工の包括発注、15m
以下の小規模橋梁は点
検・診断の包括発注を
導入している。また、
コンサルタントや測量
会社などと情報を共有
し、合意形成を図って
いる。また、地元建設
業界の技術者育成など
も検討することで、メ
ンテナンスサイクルが
上手く回るための方策

を検討している。
小澤氏は「自治体は
メンテナンスサイクル
を上手く回すための知
恵を待っている。研究
委員会は行政と民間企
業をつなぐ役割を果た
すもので、（インフラメ
ンテナンスという）新
しい市場を民間側から
提案してつくってほし
い」と期待を示した。